

## 仏語仏文学科在学生 N さんのホスピタリティ研修体験記

★「海外ホスピタリティ研修 A」及び「海外ホスピタリティ研修 B」は英語英文学科以外の学生も参加可能な短期留学、研修です

研修時の学年:2年

滞在期間:3週間

研修先:台湾 台北

研修先ホテル:IMPERIAL HOTEL

### ① インターンシップ研修に参加した理由

私は G B P を履修していて、海外研修は1年生の頃から視野に入れていました。同時にホスピタリティ業界に興味がありました。そこで英文科のホスピタリティ・マネジメントプログラムの他学科開放科目である「海外ホスピタリティ研修 A」に1年生の2月に参加しました。イギリスで語学研修と British Airways の Cabin Attendant トレーニングを体験し、素敵な仲間とも出会うことができました。その後、説明会で「ホスピタリティ研修 B」もあることを知り、研修生としてより実践的に学ぶことができる点に魅力を感じたため、台湾のインペリアルホテルでのインターンシップへの参加を決めました。



### ② インターンシップ研修で得たこと

まず、協調性です。ホテルのスタッフは1人ではなく、チームでお客様と携わっていることを強く感じました。自分の仕常に周囲に気を配り誰かをサでした。そのような協調性ができるのだと感じました。まきるといこともコミュニケーションの気持ちをより理解できホスピタリティに繋がるのだ様々な国からのお客様に対応コミュニケーションが取れず苦



事をこなすことは当たり前で、ポートされている姿が印象的あるからこそ、柔軟な対応ができた、多くの言語を話すことがでーションを取りやすくなり、相て、その人のお役に立てる＝と感じました。実際に、私はする語学力が十分でなく、コミ戦することもありました。一方で、英語で完璧に気持ちを伝えることは難しくとも、相手と向き合おうとする姿勢が大切なことであると実感することもできました。台湾は、比較的日本人の観光客も多いですが、

中国からのお客様が多く、また、ホテルのスタッフの皆さんも英語も話せますが中国語を母語としています。私は、フランス語・英語など語学の勉強に励んでおりましたので、研修時に中国語も話せたなら、もっとコミュニケーションが取れたのではないかと思います。参加される方には、是非、研修前に、英語だけでなく簡単な中国語を学んでおくこともお勧めします。

### ③ 帰国後の変化

周囲の方々との積極的なコミュニケーションや、幅広い行動力を意識するようになりました。もともと人見知りではなかったのですが、研修では、聞きたいことは自ら働きかけたり、お客様の表情を見て話しかけたりということが必要でした。帰国後はアルバイトにおいても、積極的に話しかけ情報を共有することで、円滑に働くことができている。自らの働きかけによっていくらでも行動力は広がり、いつもとは違った視点で物事を捉えることができるので、今までよりも視野が広がったように感じています。語学に関しては、より勉強に力を入れるようになりました。TOEIC や語学の資格の習得に励んでいます。



### ④ 研修経験をどう活かしたいか

この2つの研修を経験したことで、将来はお客様と携わる仕事がしたいと改めて感じるようになりました。研修先のホテルも笑顔でお客様を迎えていまちになりました。私もそのようなターンシップ研修で学んだ協ていきたいと思っております。残りの学生生活においても新たな気づきを大切に、積極的に行動していくことを意識していきたいです。



ルは、スタッフの方々がいつも、こちらまで温かい気持ちな温かな接客を目指し、イン調性や幅広い行動力を活かし



### ⑤ 留学を考えている人に一言

「ホスピタリティ」に興味がある方、少しでも悩んでいる方がいらっしゃいましたら、ぜひ参加することをお勧め致します。私自身この2つの研修で海外留学を体験し、語学習得以上のことを学ぶことができ、参加して良かったと感じております。大学生活4年間というのは、あっという間で、何か刺激のある体験をすることで自分の活動のエネルギーにつながると思います。不安もあるかと思いますが、その環境に飛び込むことで得られるものはあるはずです。自信をもって、トライしてみてください！